

# ユーコンの原野にて

ユーコンの原野を安全に、良識を持って  
旅するために



項目：

- ・ No-Traceチェックリスト
- ・ 原野における安全について
- ・ 熊への安全対策
- ・ フィッシング、ハンティングと銃
- ・ 野生動物の部位と製品
- ・ 先住民の土地

## 目次

ユーコンの原野にて .....	1
原野における安全について .....	2
熊への安全対策 .....	6
フィッシング、ハンティングと銃 .....	7
野生動物の部位と製品 .....	10
No-Traceチェックリスト .....	11
先住民の土地 .....	19
政府連絡先 .....	20



## ユーコンの原野にて

カナダのユーコン準州へようこそ。はるか遠くからユーコンを探索しに来た方もいらっしゃるでしょうし、この地に暮らしている方もいることでしょう。そして今、あなたはこのユーコンに広がる原野に足を踏み入れるための準備をしている最中なのかもしれません。

あなたが旅する場所は救助の手から遠く離れているため、正しい装備を持参することがとても重要になります。ここでは万が一なんらかの困難に陥った場合、携帯電話は町やハイウェイの限られた範囲でしか使用できないため、自分の判断と能力に頼る必要があります。色々な意味において、原野での旅は昔の開拓者やハンター、先住民の人々の旅と似ていると言えるでしょう。しかしながら、いくつか重要な違いもあります。

例えば、作家のジャック・ロンドンはフィッシングやハンティングをするためにライセンスを取得する必要はありませんでしたが、現在ではこのライセンスが必要です。また、フィッシングやハンティング、土地の使用許可を得るには、法律に従わなければいけません。さらに、原野を旅する際には、人間が通った形跡を残さないようにすることが当然のこととされています。これらは、あなたの責任ある行動さえあれば、決して難しいことではありません。私たちは、あなたがユーコンの原野を大切にしてくれると信じています。現に、この冊子を手にしていただいたことが、その第一歩だと言えるからです。

では夢であった原野での旅の計画に取りかかりましょう。この冊子を手がかりとし、書店やアウトドア店、インターネットで原野における旅の計画に必要な情報を仕入れると良いでしょう。

もしガイド付の旅をご希望でしたら、現地旅行会社のリストが掲載されているYukon Vacation Plannerの冊子が各Visitor Information Center(観光案内所)やホームページ([www.travelyukon.com](http://www.travelyukon.com))にて入手できます。

© Environment Yukon

Revised July 2009

Copies of this publication can be obtained by contacting:

Environment Yukon

Box 2703, Whitehorse, Yukon, Y1A 2C6

Phone (867) 667-5648

[environmentyukon@gov.yk.ca](mailto:environmentyukon@gov.yk.ca)

[www.environmentyukon.gov.yk.ca/campingwilderness](http://www.environmentyukon.gov.yk.ca/campingwilderness)

# 原野における安全について

一般にバックカントリー・トリップは他人の助けや救助の手から遠く離れた場所での旅になります。それ故に、安全に旅することと、全ての非常事態に自身で対応する準備をする必要があります。

この項では、原野において十分な安全対策の準備ができているかを確認します。しかしながら、楽しみながら事故の無い冒険をするために必要な技術と経験、装備を持つことはあなた自身の責任です。

もし少しでも自身の能力に疑問があれば、ガイドが同行するツアーをお勧めします。ユーコンには、安全で思い出に残る旅を提供する、政府に認可されたウィルダネス・ガイド会社が数多くあります。詳しい情報は、ユーコン観光局のウェブサイトをご参照下さい ([www.travel yukon.com](http://www.travel yukon.com))。

## バックカントリーにおいて必要な技術が充分かどうか確認しましょう。

もし、技術や経験無くして川旅や遠征に出発したとしたら、あなたは自身だけでなく、グループのほかのメンバーをも危険にさらすことになります。旅をする前に、アウトドア・レクリエーションのコースを受講したり、経験ある友人から技術を学ぶことが最善と言えるでしょう。アウトドア・レクリエーションのコースは、自分に自信を持たせてくれるだけでなく、同じように責任を持ってバックカントリーを旅したいという人々に出会う機会にもなります。コースに関しては、地元のアウトドア・クラブに問い合わせるでしょう。



## 上手にユーコンのアウトドアを旅するために

どんな方法で原野を旅するとしても、下記の事項に対処する必要があります：

- ・悪天候
- ・危険な野生動物に遭遇する可能性

いかなるタイプのボートで旅をするとしても、整備された安全装備を準備することが必要です。詳細は、Boating Safety Infoline (ボートに関する安全情報ライン、電話番号1-800-267-6687) に問い合わせるか、もしくはカナディアン・コースト・ガード (カナダ沿岸警備隊) のウェブサイト ([www.ccg-gcc.gc.ca](http://www.ccg-gcc.gc.ca)) を参照して下さい。

カヌーで川旅に出かける場合には以下の知識が必要です：

- ・瀬、川を塞ぐ大木、流木への対処法
- ・ホワイトウォーター (瀬のある川) への備えがあるボートの準備
- ・川での基本的な救助方法

さらに、適切な救助装備と、グループ全員の体のサイズに合うライフ・ジャケット (救命胴衣) が必要です。

スキー、スノーモービル、その他のスノー・スポーツの旅に出かける場合に必要な知識：

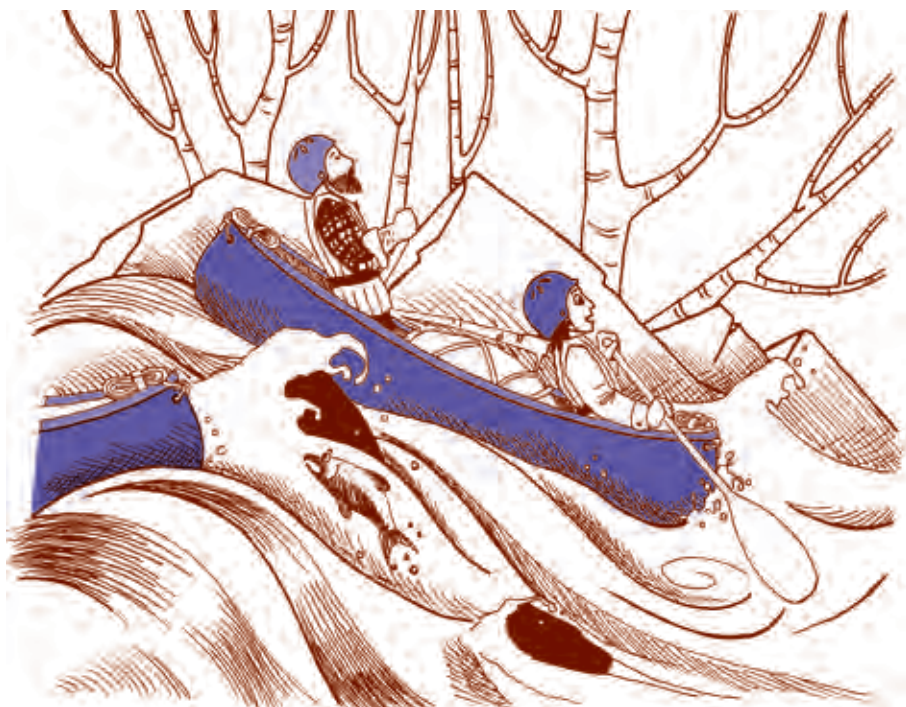
- ・アバランチ (雪崩) の危険性の高い場所の認知
- ・それらの地域で危険性を最小限に抑える方法
- ・レスキュー方法

これらの技術を学ぶには、アバランチ・トレーニング・コースを受講するのが最善の方法です。ユーコンの原野におけるアバランチの予報はありませんが、カナディアン・アバランチ協会のウェブサイトには情報交換のページがあります ([www.avalanche.ca](http://www.avalanche.ca)のPublicからDiscussion、Regional、Klondikeとページをクリックして下さい)。

一度原野に足を踏み入れると、そこからは自分だけが頼りなのだというのを、どうぞ覚えておいて下さい。

ハイキングの旅に出かける場合に必要な知識：

- ・コンパスの使い方
- ・悪条件の川の渡り方
- ・急勾配の尾根や沼地、足元の不安定な場所といった悪条件のエリアを切り抜ける方法



## 事前に確認しておくべきこと

ユーコンではトレイルやボートで旅するルートに標識が殆どありません。また、瀬のある場所や危険地帯、その他あらゆる障害物についても、それを知らせるサインもありません。従って、事前に確認をしておくことが、命を救うことになるかもしれません。

事前の確認事項：

- ・ユーコンの書店で旅のルートに関するガイドブックを購入する。
- ・地元の店で全ての地図が入手できるという保証はないため、予め旅のルートの地形図を入手しておく。地図はカナダ全域や他の国々でも入手可能。改訂リストはCanada Geomatics販売店のウェブサイトです。調べることができます。  
([maps.nrcan.gc.ca/distrib\\_centres\\_e.php](http://maps.nrcan.gc.ca/distrib_centres_e.php))。
- ・そのルートを旅した経験のある人から情報を入手する。Visitor Information CenterやEnvironment Yukon（ユーコン政府の環境課）の職員に問い合わせるのも良いかもしれません。

## 救急医療事態への準備

怪我や病気への対応策を取っておくことは、原野における安全対策の基本のひとつです。またグループの誰に処置が必要になるかは予測できないため、メンバー全員がこれらの知識と技術を備えておく必要があります。

St. John's AmbulanceとRed Cross（赤十字）はウィルダネス・ファースト・エイド（原野における応急手当）の基礎クラスを始め、各ファースト・エイドのコースを実施しているふたつの組織です。その他にも上級または専門的なウィルダネス・ファースト・エイドのコースを実施している会社もあります。連絡先については、地元のレクリエーションセンターや救命センターなどに問い合わせるといいでしょう。

救急医療事態への準備として必要な事項

- ・メンバー全員のアレルギー、健康問題や医療状態を把握し、それらに対応する装備と知識を備える。

- ・救急医療の道具が防水であること、原野での使用に適したものであること、ウィルダネス・ファースト・エイドついでの本が含まれていること。
- ・とげや虫刺されへの対処（過去に虫刺されの経験が無い場合には強い反応を示すことがあります）。
- ・低温症の予防、認知、対応方法。
- ・グループのメンバー全員がユーコンでの医療処置に対応する健康保険に加入していることの確認。

## 万が一救助が必要な場合への備え

原野における安全基準を守っていれば、恐らく救助を依頼する事態にはならないでしょう。しかし、万が一救助が必要な場合には、救助活動が速やかに行われるようにするために以下の事項が必要になります。

- ・旅のルート、スケジュール、グループの人数、テントやバックパック、その他の装備の色を誰かに知らせておくこと。そうすれば、もしあなたが予定日に戻らなかった場合、その人が異常を関係当局に通報できます（これらの情報は全てYukon Smart Travel Plan Formに記入できます。このフォームは各所、および以下のウェブサイトにて入手できます。  
[www.hss.gov.yk.ca/travelsmart](http://www.hss.gov.yk.ca/travelsmart)）。

## 公有地でのキャンプ

自分が所有する土地でない限り、勝手に原野に入り、自分の家を建てることはできませんが、人数と滞在日数をかけた合計が100日以下である限り、公有地にテントを設営することが許可されています。

事前にその土地が先住民や市町村、私有地や貸し出されている土地でないことを確認して下さい。また、勝手にその土地を開拓したり、トレイルや道路を作ったり、また自分の所有地として申請することもできません。

- ・Emergency personal locator beacon (EPLB)や衛星電話、VHFまたはHF ラジオ、鏡や笛、発炎筒など、非常時に信号を送る装備を持参すること（もしEPLBを携帯する場合、ひと度信号を送れば直ちに救助が開始され、数百時間に及ぶ労力と数千ドルもの費用が費やされることを認識しておいた方がいいでしょう）。
- ・場合によっては、救助活動にかかる一切の費用、あるいは一部を当事者が負担しなければならないため、救助費用を補償する保険に加入しておくこと。

- ・国際的に認識されている原野においての遭難信号を学ぶ。
- ・単独行の場合、怪我や病気になった場合に助けを呼びに行く人がいないということ、また二人で旅する場合には、パートナーが助けを呼びに行く間、犠牲者は独りきりになるということを認識しておく。



# 熊への安全対策

ユーコンの原野を旅する場合、熊に襲われる可能性といった危険性も伴っています。そのチャンスは低いとはいえ、それは現実には起こり得ることなのです。大切なのは、熊の生態と習性を学び、冷静に対応する姿勢を取ることです。

## 事前の計画

旅を始める前に、、、

- ・熊の生態や習性についての資料を読む。
- ・熊の足跡や、その他の形跡の識別方法を学ぶ。
- ・ベア・スプレアの携帯を検討する。その場合には使用方法を学ぶ。
- ・「How you can stay safe in bear country」（英語版のみ）を読み、熊の安全対策を学ぶ。Visitor Information Center、もしくはEnvironment Yukonのオフィスにて資料を受け取るか、もしくは下記のウェブサイトからダウンロード可。  
[www.environmentyukon.gov.yk.ca/bears](http://www.environmentyukon.gov.yk.ca/bears)

## 予防策

- ・常に警戒し、熊や足跡、糞、新しい穴を掘った跡や木についた爪あとなどに注意して行動する。
- ・できる限り視界の良いルートを選ぶ。
- ・深い森や実がなる木が密生している場所、水の流れている場所の近くでは特に音を立て、熊に人が来ていることを知らせる。鈴よりも大きな話し声や歌声の方が効果的。
- ・グループで旅する。
- ・近くで見るためや、写真を撮るために熊に近づかないこと。そのような場合には、双眼鏡や望遠レンズを使用すること。

- ・獣道や魚が産卵する小川、新しい熊の形跡がある場所や木の実など、熊の餌が多い場所を避けてキャンプ地を選ぶ。
- ・熊に餌を与えない。
- ・食糧は真空パックなどに入れる。ゴミも真空パックなどに入れて持ち出すか、もしくは燃やして、焼け残りは持ち帰る。
- ・ベーコンや缶詰の魚といった、脂肪分が多く匂いの強い食べ物は避ける。
- ・できれば風下で、テント場から充分離れた場所で調理する。
- ・夜は、食糧をテントから最低でも100メートルは離れた所に保管する。ロープを使い、地面から最低2.5メートルの高さに吊り下げる。
- ・食べ物や化粧品をテントに持ち込まない
- ・魚を釣ったら、テントから離れた場所できばき、内臓は川や湖に捨てる。

## もし熊に出会ったら、、、

落ち着くこと。立ち止まって状況を判断すること。この時点で走ったり、座り込んだり、死んだふりをしたりしないこと。

## もし熊があなたに気づいていない場合、、、

気づかれないように、その場を去る。迂回するか、熊が去るのを待つ。

避けられない場合には、自分の存在を静かに知らせる。風上に回る。低い声で話しかける。手をゆっくり振りながら後退する。

## もし熊が近づいてきたら、、、

落ち着いてその場に立つ。もし仲間がいる場合には、グループを集合させる。強気でいながらも、熊に考える時間を与えるために攻撃的な姿勢は見せない。もしベア・スプレアを携帯しているならば、それを手に持ち、ノズ

ルを自分から離して構え、自分にかからないように風向きをチェックして準備する。熊の行動を観察し、自己防衛の素振りを見せているかいないかを判断する。

## もし熊がストレスを感じているように見えたら、、、

喉頭音や唾液を出したり、手足を地面に打ち付けたり、単発の攻撃姿勢を見せたりしたら、それは自己防衛のサインです。もしかすると小熊や動物の死骸が周りにあるのかもしれない。自己防衛の熊は脅威と感じるものを除去するために襲いかかるのです。

- ・熊に自分は危険なものではないことを知らせる。
- ・落ち着いた声で話しかける。
- ・ゆっくり後ずさを始める。
- ・もし熊が近づいてきたり、攻撃の姿勢を見せた場合には、その場に立って、熊に向かって声をかけ続け、ベア・スプレアを短く噴射する（熊との遭遇は、熊があなたに向かってきた場合のみ、攻撃姿勢を取っているとみなします）。

もし熊が襲ってきた場合、地面に倒れて死んだ振りをすれば、熊は危険を感じなくなるでしょう。熊に転がされるのを防ぐために地面にうつぶせになり、両手を首の後ろで固く結び、足を少し開いておきましょう。

- ・特に熊との間に距離がある場合、熊が近づいてくる前に死んだ振りをしない。この事が、逆に熊を刺激することにもなります。
- ・熊の攻撃が済んでも、熊がその場を立ち去るまではそのまま死んだ振りを続ける。

## もし熊がストレスを感じていないように見えたら、、、

頭と耳を立ててあなたを観察している場合、それは自己防衛の必要を感じていないということです。恐らく好奇心を示しているのか、もしくは食べ物や、あなたを獲物として興味を持っているのです。

- ・力強い声で話しかける
- ・熊の通り道から離れる
- ・もし熊が後を追ってきたら、立ち止まる。

今こそ、本当に危険な状態です

- ・叫んだり、攻撃的な素振りをします。丸太の上に立つなどして、自分を大きく見せ、足踏みして下さい。ベア・スプレアを噴射し、霧の幕を作って下さい。ただし、更に距離が縮まった時のために噴射するだけのスプレアを残しておく必要があります。
- ・もし熊が襲ってきたら、あらゆる物を武器にして戦って下さい。決してあきらめないことが大切です。

## 下記のような状況で熊に襲われた際には戦って下さい。

- ・テントや建物に入ってきた場合
- ・ブラック・ベア（クロクマ）が襲ってきた場合
- ・グリズリー（ヒグマ）が小熊を守る為や、動物の死骸、至近距離で驚かされたことに関係無く忍び寄ってきたり、襲ってきた場合

これらの熊は、自己防衛ではなく、食糧を狙うことに動機があります。この場合、自分の持っている物や、ありったけのエネルギーを使って熊と戦わなければいけません。蹴りつけたり、叩いたり、石や木の欠片や、何でも手短かな物で殴ったりするべきです。

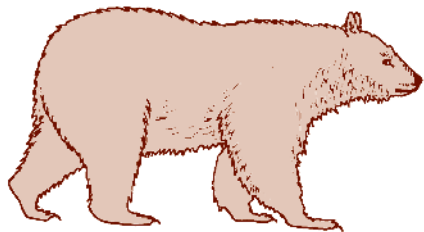
## ベア・スプレアについて

もし熊がゆっくりと近づいてきたり、距離を置いて追いかけてきたりしたら、後ずさりしながら熊との間に2-3発スプレアを噴射します。このスプレアによってできた霧の幕が、熊の追跡を止めるかもしれません。ただし、熊が引き続き追ってきた時のために、至近距離で噴射するだけのスプレアを残しておくことが大切です。

もし熊が襲って来たら、熊に向き合い、2-3発スプレアを噴射して自分の前にバリヤーを作ります。後で至近距離で噴射するのに必要なだけのスプレアは残しておきます。

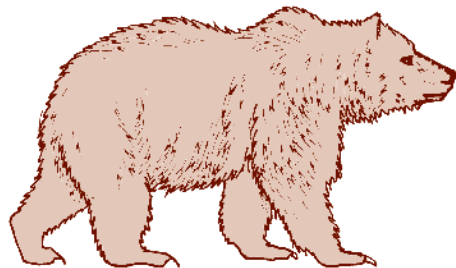
更に詳しい情報は

熊に関する情報は、Environment Yukonのオフィスにお問い合わせ下さい。



### これはブラック・ベア？

1. 背中が一番高いポイントは後ろ足の上の部分です
2. 横から見ると鼻は真っ直ぐに長く伸びています
3. 前足の爪は黒っぽい色で比較的短く、曲がっています



### これはグリズリー？

1. 背中が一番高いポイントは前足の上の部分です
2. 横から見ると額の部分が凹型をしています
3. 前足の爪は色が薄く10cm以上の長さがあり、心持ち曲がっています

## フィッシング、ハンティングと銃

### フィッシングについての概要

ユーコンで釣りをするには、有効なYukon Angling Licence (ユーコン・アングリング・ライセンス) が必要です。このライセンスには、ユーコンにおいて、サーモン以外のあらゆる種類の魚を釣る許可が与えられています。サーモンを釣るには、Salmon Conservation Catch Card (サーモン・コンサベーション・キャッチ・カード) を取得する必要があります。

ライセンス購入時には、Yukon Fishing Regulations Summaryの冊子が渡されます。この規則冊子は英語、フランス語、またはドイツ語から選ぶ事ができ、ユーコンに生息する種類の魚がイラストで紹介されてい

ます。この冊子に書かれている捕獲制限数や、その他の規制は全て守らなければなりません。また、釣りの道具として認められているのは竿、ラインとフックのみで、それ以外の方法、例えば延縄にて釣る場合には、別に許可が必要になります。

Yukon Angling Licenceは、Environment Yukonの各オフィス、Fisheries and Oceans Canada (DFO)の各オフィス、ユーコン各地のハイウェイ沿いにあるロッジやスポーツ用品店、コンビニエンス・ストアなどで購入できます。

その他、魚の種類や釣りの情報については、Visitor Information CenterにあるYukon Freshwater FishesやFishes and Fishing On Yukon Timeといった冊子で紹介されています。

### ハンティングについての概要

ハンティングについての規則は、ユーコン居住者と非居住者によって違いがあり、また青少年については特別にいくつかの規則があります。

ユーコンに1年居住した後は、居住者としてYukon Hunting Licence (ユーコン・ハンティング・ライセンス) を取得できます。このライセンスでは、Big Game (大型の猟獣類) と Small Game (小型の猟獣類) を獲ることができます。

青少年 (1987年の4月1日以降に生まれた人) 居住者がハンティング・ライセンスを取得するには、承認されたハンター教育プログラムを修了する必要があります。

非居住者は夏の期間に限りガイド無しで Small Game を獲ることのできるライセンスを購入することが可能です。

秋には雷鳥と水鳥も獲ることもできます。

非居住者が Big Game を 獲る場合には、特別なガイド、もしくはアウトフィッターに所属する、Big Game を獲る資格を持ったハンティング・ガイドが同行する必要があります。従って、夏に原野を旅する場合にはハンティングは旅の主な目的にはならないでしょう。

動物に敬意を払い、必要なものだけを獲り、獲ったものは全て消費しましょう。

“あなたが命を奪った時、動物はその人生をあなたに与えたのです。だからこそ、あなたはその尊い魂(精霊)に感謝しなければいけません。あなたが生きるために、何かが命を失ったのです。私は、こう考えます”  
アート・ジョーンズ、カークロス・タギッシュ先住民族



## Small Game (小型の猟獣類)

カンジキウサギやホッキョクジリス、ヤマアラシや雷鳥といった小型の猟獣類を獲る場合には、有効なライセンスを取得する必要があります。ライセンスは、Environment Yukonのオフィスや特定のスポーツ用品店などで購入できます。この時、Yukon Hunting Regulations Summary (ハンティングの規制概要) の冊子も受け取ります。

## 渡り鳥

カモ類やガン類のような渡り鳥を獲る場合には、それに有効なライセンスが必要です。渡り鳥の狩猟ライセンスは、ユーコンの郵便局にて購入できます。この時、渡り鳥のハンティング規則の冊子も受け取ります。殆どの渡り鳥のハンティング・シーズンは9月1日から10月31日までです。

## Big Game (大型の猟獣類)

大きな猟獣類には、ムース、カリブー、バイソン、マウンテン・シープ、マウンテン・ゴート、鹿、エルク、ブラック・ベア、グリズリー・ベア、コヨーテやウーバリン(クズリ)が含まれます。

大型の猟獣類のハンティング・ライセンスはEnvironment Yukonのオフィスにて取得できます。また、前年もライセンスを所持していたユーコン居住者は、特定の店でも取得できます。ハンティングの時期、制限数、許可書、先住民の管理下にある土地、その他の規則については、毎年夏に出版されるYukon Hunting Regulations Summary (ユーコンにおけるハンティングの規制概要) に記載されます。

Big Gameアウトフィッターのリストについては、下記の協会に問い合わせ下さい。

Yukon Outfitters Association  
(867) 668-4118  
info@yukonoutfitters.net または  
www.yukonoutfitters.net

Big Gameハンティングについて更に情報が必要な場合には、Environment Yukonにお問い合わせ下さい。

## 銃についての概要

ユーコンの原野を旅するにあたり、銃は必要な装備ではありません。事実、ユーコンの居住者や旅行者の多くは、カヌーやハイキングに出かける際に銃を携行しません。銃は重く、それで狩りをして生きていけるわけでもなく、また慣れない人が使用すれば、致命的な事故も起こりかねません。さらに、Kluane、Ivvavik、Vuntutといった国立公園内での銃の携行は禁止されています。

もしハンティングや熊対策(これは個人の判断になります)のために銃を携行することを決めた場合には、以下の事項を含む、カナダの銃規制の法律に従わなければなりません。

- ・銃を使用していない時には弾薬を抜き、銃は弾薬から離しておく必要があります。また、鍵のかかったケースに収納するか、引き金をロックする鍵をかけるか、もしくはボルトを外しておかなければいけません。を鍵のかかる容器に収納できない場合には、銃から離れた場所に保管する必要があります(これらの法律は、極地の原野では適用されません)。
- ・銃は、移動の際には弾薬を抜いておかなければいけません。車内に置いておく場合には、トランクがある場合はその中に入れて鍵をかけ、ない場合は鍵をかけた車の中で、外からは見えないようにしておかなければいけません。もし車に鍵がかけれない場合には、誰かが銃と一緒に車の中に入れておかなければいけません。極地の原野では人の目につかない場所で引き金に鍵をした状態であれば、銃を置いて離れることも許可されます。また、もし動物など危険をコントロールするためであれば、引き金に鍵をかける必要はありません。
- ・ここに記載した法律は、ハンティング用のライフルと散弾銃のみに適用されます。ピストルやその他の制限された銃器については、さらなる法律が適用されます。

その他詳細は、RCMP Canadian Firearms Program (トールフリー: 1-800-731-4000) にお問い合わせ下さい。

# 野生動物の部位と製品

野生動物の部位とは角、毛皮、爪、歯、肉、さらに動物の死骸のあらゆる部分が対象になります。

野生動物の製品とは、野生動物の部位で作られた彫刻やなめした皮、剥製品やその他あらゆる品目が対象になります。

これらの品物の売買やユーコンからの輸出は野生動物保護法によって規制されています。

## 購入する場合

野生動物の部位や製品を購入する場合、その入手場所について証明する書類が必要になります。もしこの書類がない場合、品物は差し押さえられるか、輸出許可が下りない可能性があります。公認のギフトショップや剥製所で購入した場合、店で発行するレシートがその役目を果たします。もし公認されていない人から品物を購入したい場合には、相手にワイルドライフ・アクト販売許可の申請をするように頼んで下さい。また、輸出先の国についての最新の規制についての詳細は、Environment Yukonのオフィスにお問い合わせ下さい。

## 見つけた場合

もし動物の死骸の部位を見つけ、それを所持したい場合には、それらをEnvironment Yukonのオフィスに持ち込み、許可の申請をして下さい。担当者がいくつかの質問をし、問題が無い場合には許可証が発行されます。自然に抜け落ちた角の場合は、例外として許可の申請は必要ありません。

## ユーコンから持ち出す場合

野生動物の部位や製品をユーコンから持ち出す場合には、前もってEnvironment Yukonのオフィスにて輸出許可証を取得しなければいけません。また、以下の種類の部位をカナダから持ち出す場合には、特別にCITES許可証を申請する必要があります。グリズリー・ベア、ポーター・ベア(シロクマ)、ブラック・ベア、ウッド・バイソン(バッファロー)、オオカミ、リンクス(オオヤマネコ)、オッター(カワウソ)。アメリカやドイツなど多くの国では、野生動物の輸入について自国の規制を設けています。輸入国についての詳細をきちんと調べることが大切です。



# No-Traceチェックリスト

## ユーコンの自然と純粋さを守るために

この項では、原野を旅するにあたり人間の通った跡を最小限に抑える、あるいは全く残さない（以下、No Trace）ための方法を述べていきます。私たちの共通のゴールは、ユーコンへの旅行者と居住者、両者にとって質の高い原野体験の場所を守っていくことです。

初めてユーコンや原野での旅に出かける方にとって、この指導書は適切なスタートとなるでしょう。また旅慣れた方にとって、最新の役立つ情報が見つかるはずで、野生地におけるNo Traceの実行により、ユーコンの自然と純粋さは保たれていくことでしょう。

## インパクトとは？

T最も明確なインパクト（影響）は、原野に残されたごみです。その他には、多くの人がキャンプや旅をしたために荒れた地面や植物でしょう。また、見落とされがちなインパクトのひとつに、人間がバックカントリーに持ち込んだ食べ物や置き去りにする廃棄物に刺激されたことによる野生動物の行動の変化があります。

Wあるインパクトが生態系にダメージを与える一方で、その他のインパクトが原野での体験の審美性を傷つけているのです。

ウィルダネス・ツアー・オペレーター（ライセンス登録したツアー会社）は、野生地におけるNo Traceの旅と廃棄物の処理についての特別な規則を守ることが義務づけられています（Yukon Wilderness Tourism Licensing条例）。詳細は、Registrarにお問い合わせ下さい。  
Phone (867) 667-5648  
Email yukon.parks@gov.yk.ca

例えば、トイレット・ペーパーが風に吹かれて川辺の木に引っかかっていることでの環境へのインパクトは小さいかもしれませんが、それが原野での旅の楽しみを壊すことにもなり得るのです。

## 北米で起こっているNo Traceの輪

ここでご紹介するチェックリストは、北米の様々な団体や政府から発行されている数多くのNo-Traceについての指導書のひとつです。いくつかの項目はユーコンならではのものであり、それらは地元で原野を旅した人々からの提案に基づいています。しかしながら、一般的な趣旨は他のNo Traceの文献にある考えと一致しています。

Environment Yukonでは、No Traceの活動において北米でリーダー的存在であるLeave No Traceセンターによる教育的、そして倫理的な原則を採用しています。このチェックリストの見出しは、その原則から引用しています。Leave No Traceは一定の規則に縛られたものではありませんが、これらの提案事項は、きっとあなたが野生地にインパクトを与えずに旅するためへのアドバイスになるでしょう。

## No Traceチェックリスト

### 1. No Traceを計画する

旅に出る前には、きつと入念な計画を立てるでしょうが、No Traceを計画することは、その過程におけるひとつのステップです。ここに挙げるテクニックの多くは当たり前のことであり、またそれ以外は心がけて実行していくうちに習慣として身に付くでしょう。大人数のグループは、それだけ

自然に与えるインパクトも大きいので、少人数での旅を計画しましょう。グループには2人から6人が適当です。もし大人数のグループをいくつかの少人数のグループに分けることができれば、全体的なインパクトを抑えることができます。

- ・ 旅に出る前にグループのメンバーとNo Traceの技術についてよく話し合い、計画を立てましょう。
- ・ 前もってしっかりと食糧計画を立てれば、廃棄物も少なくなります。また、包装などを予め取り除いておくと、ゴミの量を減らすことができます。包装の多い製品を初めから避けるのも良いでしょう。食糧は密閉できるビニール袋や容器に入れ替えると軽く、荷物の量も減り、また匂いで野生動物を刺激する可能性も減少します。
- ・ 新鮮な肉や魚、その他魚介類など匂いが強く、また腐りやすい食べ物は、餌を探す動物を刺激するので避けましょう。これらの食糧でも、小さな1食分の缶詰であれば大丈夫です。空き缶は燃やして持ち帰り、リサイクル・センターに持っていくといいでしょう（リサイクル・センターのリストはEnvironment Yukonのオフィスにて入手できます）。

- ・ 旅する地域の野生動物について予め調査しておけば、動物を刺激する可能性を最小限に抑える方法も学べるでしょう。野生動物観察についての情報はEnvironment YukonのWebサイトで閲覧できる他、冊子をEnvironment Yukonのオフィスやビジター・インフォメーション・センターにて入手できます。
- ・ この冊子のハンティング、フィッシング、先住民の土地を使用する場合の法律が書かれた項をよく読んで下さい。
- ・ 安全の確保とインパクトを最小限に抑えるために、旅やキャンプの装備は注意して選びましょう。あらゆる状況や環境を想定して計画を立てることが大切です。
- ・ インパクトの少ないルートやキャンプ地を計画するために、地形図を使いましょう。このためには、5万分の1や25万分の1の地図が最も適しています。地形に注意して下さい。
- ・ 火の確保とインパクトを最小限に抑えるために、キャンプストーブと十分な燃料を準備しましょう。もし焚き火をするつもりであれば、マウンド・ファイヤー（地面にビニールシートなどを敷き、その上に砂利や土を積み上げ、その上で火を焚く方法。使用后、砂利や土を撒き散らせば、焚き火の跡が残らない）のためのシートか焚き火用の箱を持参しましょう。
- ・ 自分の排泄物を持ち帰る場合には、適切な容器を持参して下さい。



## 2. 地盤のしっかりした場所でのキャンプと旅を心がける

### ハイキングに出かける時

ハイキングをする人にとって最も大切なのは、植物を健康で手付かずの状態に保つことです。これによって、植物の再生も早くなるのです。

- ・既存のトレイルを利用し、新しいインパクトを作ることを避ける。もし野生動物の形跡がトレイルに残っている場合には、注意を払うこと。詳細は、この冊子の熊への安全対策の項をご参照下さい。
- ・トレイル上では、たとえぬかるんでいても一列縦隊で歩き、トレイルを広げないようにすること。
- ・トレイルが無い場所では、なるべく砂利の河原、砂地や岩場、雑草の多い場所など地盤の強い場所を歩くこと。急斜面や地盤の悪い斜面、濡れて滑りやすい場所などは避けること。もし植物の密生した場所を横断しなければならない場合には、新しいトレイルを作らないように散らばって歩くこと。
- ・冬季には、雪が降るたびに人の通った跡はかき消されるでしょう。高山地帯や春の雪解けの季節には、水分を多く含んだ土の上を歩くことは避けること。

### キャンプする時

たとえ一晩の滞在であっても、その土地や次にその場所を旅する人に永続的な影響を与えかねません。そのため、以下の提案を踏まえておいて下さい。

- ・いいキャンプ地を見つけるには、早い時間から場所を探し始めること。
- ・キャンプ地を小さくまとめる。行動する場所は、植物が無い場所や耐久性のある場所に限ること。
- ・できるだけ既存のキャンプ地を選ぶこと。来たときよりも、できるだけきれいな状態でキャンプ地を離れること。掃除すること、焚き火の場所の数を減らすこと、ダメージを受けた場所が再生するように心がけることなどは、次にキャンプ地を使う人により良い環境を与えることになります。
- ・未使用の場所でキャンプする場合には、許容範囲の幅の広い岩場や砂地、砂利、雪や

氷など、耐久性のある場所を選ぶこと。砂地や水はけのいい場所、平らな土地に育つ植物は、一般的にキャンプのインパクトにも強いとされます。雑草やキニクニク、アーケティック・ウィローやマウンテン・アヴェンズなどが例として挙げられます。

- ・水上を旅している場合には、砂利地や砂地でキャンプするといいでしょう。キャンプによる多少のインパクトも、春の増水によって消滅します。ただし、永久凍土や突き出た岩床は殆ど水を吸収しないため、大雨が降った場合に急激に水面が上がる可能性があり、キャンプ地を選ぶ際には注意する必要があります。
- ・キャンプ地から水場へのルートや、その他よく使用する場所にできるだけ跡を残さないよう、ルートを時々変えるように心がけること。キャンプ地では軽いランニング・シューズを履くことなどもインパクトをなるべく残さないようにする手段のひとつです。

## 3. ゴミの正しい処理法

ゴミは野生地における重要な問題のひとつですが、全てをきちんと処理する方法はありません。

- ・もし焚き火をするならば、トイレトペーパーや女性の生理用品など、動物を刺激する匂いのあるものは燃やしてしましましょう。キャンプファイヤーの灰はあちこちに撒き、燃えカスは全て持ち帰るようにします。
- ・ゴミやトイレトペーパーなど、燃やさない場合にはきちんと持ち帰りましょう。バッグは2重、3重にすると匂いを防ぐことができます。真空パックや、再利用可能な容器を使用すると更に効果的です。
- ・ゴミは絶対に埋めないで下さい。野生動物が掘り起こして周囲に散らばったり、またそれが原因で怪我をしたり死んだりするかもしれません。全て持ち帰って下さい。
- ・キャンプ地を去る前に、もう一度ゴミが落ちていないか点検して下さい。袋を結ぶためのひもや、プラスチックの破片といった小さなものは見落としがちです。人がいたことをキャンプ地に残さないようにするのは、やりがいのある挑戦であるとも言えるでしょう。



## 木の伐採

有効な許可証無しで木を伐ることが出来るのは、焚き火のためのみです。この場合も、枯れ木に限って（倒木、もしくははまだ立っているもの）伐ることが出来ます。

### 汚水と残飯の処理

- ・まず、食器は容器の中で洗います。それから、テントや水がよどんだ場所から離れた所に掘った穴に水を捨てます。キャンプ地を去る前に、穴をきちんと埋めることを忘れないように。また、水を捨てる際にはザルのようなものを使って残飯を取り、それらは持ち帰るか燃やすこと。この方法は、食べ物の匂いを抑え、水の供給地の汚染を予防し、また岸辺に残飯が残らないようにします。
- ・もしくは、流れの速い川に洗い物の水を捨てることもできます。この際には、流れがあるところに水を振りまくようにしてください。食べ物の匂いを完全に絶つためには、穴を掘って水を捨てるよりもいい方法です。
- ・他に食べ物の匂いを残さない方法として、キャンプ地に到着する前に他の場所で食事を取ることもあります。料理の匂い、こぼれカスや洗い物をした水などから離れた場所でキャンプすることで、エサを探す動物を刺激しません。

## ゴミ

野生地にゴミを捨てるのは、ユエコンの環境条例に違反する行為です。

- ・石鹸やシャンプーをなるべく使用しないようにしましょう。微生物によって無害な物質に分解できる製品の使用は不可欠です。湖や小川などを汚染しないよう、水から離れた場所で使用して下さい。

### 人間の排泄物

- ・トイレに行く場合には、水辺から最低60メートル離れた場所にすべきです。もし増水した際に沈下するような場所にキャンプする場合には、更に離れた場所で、地面を小さなシャベルで15センチほど掘って排泄します。その後、土を少しかけ、腐敗を促進するために木の枝などで混ぜて最後に土を完全に被せます。場所は、他の人の穴やキャンプ地から十分距離を置いた所を選ぶようにしましょう。
- ・北の地でのバクテリアの作用は南方に比べて非常にゆっくりしています。したがって、有機性のゴミや人間の排泄物が腐敗するのにもかなり時間がかかります。
- ・永久凍土でも腐敗には時間がかかります。トイレの場所は、永久凍土が深い所にあるか、全く無い場所を選ぶか、もしくは土がある程度の深さまである所を選ぶようにしましょう。南向きの開けた斜面が最も適しています。
- ・キャンプ地ではなく、行程の途中でトイレ休憩していきましょう。こうすることで、使用度の高いキャンプ地のインパクトを減少させることができます。

- ・使用したトイレトペーパーは紙の袋に入れて焚き火で燃やすか、他のゴミと一緒に持ち帰りましょう。また、トイレトペーパーの代わりに苔や木の葉、雪や草といったものを使用する方が、本来の自然分解の手段として良いことも知っておくといいでしょう。
- ・大人数のグループで、同じ場所にしばらく滞在する場合には、共同で使用するトイレの穴を掘るか、自分の排泄物を持ち帰るようにしましょう。穴は、最低でも30センチの深さで、水辺から60メートル離れたところに掘って下さい。また、誰かが使用する度に少しずつ土を被せていけば腐敗を促進し、また匂いも抑えます。しかしながら、やはり最善なのはグループを少人数で作って、キャンプ地を毎日移動していくことです。

## 4. 発見したものは、その場に 残していく

### 歴史的なもの

- ・歴史的な加工品や考古学の標本、化石などには触れないで下さい。それらをYukon Heritage Branchの許可なく収集するのは違法です。もし、偶然に歴史的な加工品や場所を発見した場合には、Heritage Resources Branchに、もしそれが先住民の土地であった場合には、そこの先住民事務所に報告しなければなりません。詳細は、Heritage Resources Branch (867) 667-5386、もしくはユーコンからであればフリーダイヤル1-800-661-0408にお問い合わせ下さい。

### 自然をそのままに

- ・木を切ってテーブルや避難場所、その他のものを作るのは、次にそこを訪れる人の野生地での経験を侵害することになります。

## 5. 焚き火によるインパクトを最小限に抑える

ユーコンには至るところに薪が豊富にあります。しかし、場所によっては焚き火のために石で丸く囲み、地面が黒く焼けた場所や、その他のキャンプファイヤーによるダメージ、木の枝を折られた跡など、原野らしさが損なわれてしまった所もあります。

キャンプファイヤーはまた、森林火災の原因にもなります。多くの火災がキャンプファイヤーをきちんと処理できない旅行者の手によって起こっています。火の粉、泥炭や木の根を通じて、何日、何週間、そして何ヶ月もかけて地面の下でくすぶり続けて発火するのです。

安価で軽く、効率が良く信頼性のあるバックパッキング用のキャンプストーブは数多くあり、焚き火をする必要性を無くします。キャンプストーブを持っていれば、いつでもオプションとして使用もできます。それでも、安全な場所で焚き火をする場合には、以下の提案事項に沿って行うようにして下さい。

- ・既存の焚き火の場所を使う。もし焚き火の場所が数箇所ある場合、できればひとつを残して跡を消して下さい。
- ・火は小さく焚く。
- ・地面で直接焚き火をすると、その跡が残ってしまいます。火は、植物を傷つけるだけでなく、土も駄目にしてしまいます。もし焚き火をするかしないか迷っている場合には、焚き火が必要であるか、またその影響についても考慮して下さい。
- ・焚き火をするにしたら場合には、焚き火用の箱か、マウンド・ファイヤーのテクニックを使うことを考慮して下さい。この方法は、地面の植物を熱で傷つけないために、大きなシートの上に既にダメージを受けている場所から持ってきた砂や砂利を約20センチ積み上げます。使用後は、砂や砂利を元の場所に戻して下さい。
- ・薪には、倒木などの枯れ木のみを使用して下さい。スプリースの木は細く、枯れて乾燥した枝は、火を点けるのに便利です。乾燥して細く枯れたウィロー（ヤナギ）の木は煙も少なく、よく燃えます。薪は必要な分だけ色々な場所から集め、火はできるだけ小さく保ちましょう。ノコギリの跡は誰かがその周辺にいたという証拠を残しますので、ノコギリは人目の付かない場所で使用するようにして下さい。
- ・薪や墨は灰になるまで燃やして下さい。手で触れて熱い場所が無くなるまでかき混ぜながら水をかけて下さい。焼け残ったゴミは集め、灰は周囲にばら撒いて下さい。
- ・砂地や砂利地は、洪水の危険がなければ焚



き火をする場所として好条件の場所です。このような場所では、焚き火の跡も増水期に流されてしまいます。しかしながら、植物への影響を抑えるためには、やはり岩の上でマウンド・ファイヤーや焚き火用の箱を使用することをお勧めします。

- ・焚き火が禁止されている場所や焚き火をしたら危険な地域、枯れ木が少ない場所では、キャンプストーブを使用して下さい。
- ・冬の雪深い場所や氷の上での焚き火は、正真正銘のNo Traceファイヤーと言えるでしょう。小さな焚き火であれば、使用後にもまだ火が地面まで届いていないかもしれませんが、残ってばら撒いた灰も、その数日後の積雪できれいに覆い被されることでしょう。

## 6. 野生動物を尊重する

- ・野生動物の観察は、原野を旅する楽しみのひとつです。動物との間に十分な距離を保ち、静かにすることで観察の時間を延ばし、動物に与えるストレスを最小限に抑えることができます。
- ・動物の観察には双眼鏡、望遠鏡、カメラの望遠レンズ(300mm以上)が最適です。これらを使用すれば、安全な距離を保ちながら、野生動物の自然な行動を観察できます。

野生動物の自然な行動を観察できます。もし動物が人の気配に気づいたとすれば、それは恐らく近づきすぎているために、動物にストレスを与えていることを意味しています。同時に、自分自身を危険に陥れていることにもなります。

- ・巣や巣穴、採餌場所や交尾の場所など、明白な野生動物の形跡がある場所ではキャンプしないこと。
- ・野生動物にエサを与えないこと。野生動物にエサを与えることは、彼らの健康を損ない、習慣を変え、天敵やその他の危険にさらすこととなります。
- ・食糧をきちんと保管、処理し、野生動物とあなた自身の食糧を守りましょう。キャンプ地は常にきれいに保ちましょう。
- ・逃げたり、後退している野生動物を追いかけないで下さい。子供と母親を引き離しているかもしれませんし、動物のエネルギーを消耗させたり、あなた自身を危険な状況に陥れることにもなりかねません。
- ・野生動物の孤児を見たときには、特に注意して下さい。大抵の場合、母親が近くにいることが多く、近づけば母親が子供を守るために襲ってくる可能性があります。殆どの場合、動物を放っておくことが最善です。

- ・野生動物に遭遇することを考慮し、予め動物の行動癖について学んでおきましょう。攻撃的な態度や恐怖、逃避の動きのサインを知っておくことは、正しい反応を判断することに役立ち、またどんな小さな生き物に対してもインパクトを抑えることができるでしょう。
- ・ペットはきちんとコントロールするか、もしくは家に置いていきましょう。
- ・交尾や巣作り、子育てや冬季など、敏感な時期には野生動物を避けましょう。

## 7. 他人への思いやり

原野の住人や他の旅行者を思いやることは、人々の旅を更に楽しいものにします。

### ウィルダネス・キャビン

バックカントリーで見かけるキャビンの殆どは、冬のわな猟シーズンの間に使用される、ライセンスを持つわな猟師の物です。これらのキャビンや原野で見つけたわな、装備などを荒らしたりしないで下さい。猟師たちは、キャビンが元のままの姿で、装備があるべきある場所にあることを想定して、冬そこに戻って来るのです。



騒音、派手な色のテントや服装でさえ、原野における経験を侵害しかねません。一方で、状況によっては物音を立てることで熊に遭遇する危険を回避できる可能性もあります。また明るい色の装備が救助や飛行機によるピックアップの際には重要なことになるかもしれません。したがって、正しい行為や装備というのは、その状況によるのです。

大切なのは、計画を立てる際や実行する時に、他の人のことも考えるということです。

### No Traceに関心を持っている人への感謝

No Trace倫理の実践、実行例、知識のシェアをしたいといったことは、あなたのように将来ここを旅する人や住人のためにユーコンの自然と純粋さを守る助けになります。

## 更に詳しい情報

ユーコンにおいてLeave No Traceのトレーニングを行っている組織は以下の通りです。Yukon Conservation Society, NOLS Yukon, Environment Yukon's Parks Branch。

更に、No Traceの実践について包括的な理解を促す素晴らしい書籍やウェブサイトもあります。以下のウェブサイトはその一例です。Leave No Trace Centre for Outdoor Ethics ([www.lnt.org](http://www.lnt.org))、および [www.yukonparks.ca](http://www.yukonparks.ca)。

# 先住民の土地

## 先住民の土地の位置を把握する

先住民の領土は、それぞれの先住民が昔から使用していた領域内に区画設定されています。この土地は開発されている地域もあれば、そうでない地域もあります。一般的に入れる場所は以下に記す通り、開発されていない地域に限られています。旅をしたい場所の条件を調べることは、旅行者自身の責任となります。

## 開発されていない土地を旅し、キャンプする

### 旅行者の権利

キャンプや釣りといった、商業用でないレクリエーションが目的の場合、下記の責任事項を守れば、開発されていない先住民の領土に一定の期間入って横断、滞在する権利があります。

### 責任事項

開発されていない土地に入る場合、以下の事は避けて下さい。

- ・土地や建物にダメージを与える行為
- ・先住民の領土の利用や楽しみを妨害する行為
- ・危害を加える行為

これらの行為は、不法侵入者とみなされます。

### 水辺の優先権（または通行権）

先住民の土地の内や側の土地を含め、殆どの水辺に関しては最高水位より岸の内側へ向かって30メートルは水辺の優先権とみなされています。このエリア内では休憩やキャンプをしたり、倒木を焚き火に使用することが許されています。

しかしながら、先住民の土地では、場所によっては水辺の優先権の区域であっても一般のキャンプやフィッシングを禁止している場所もあるので注意が必要です。これらの場所は、Yukon Fishing Regulations Summaryの中で指定されています。

## 更なる情報

先住民の土地である地域がどこにあるか、およびそこが開発済みであるかそうでないかについては、Environment Yukonのオフィス、もしくは旅する場所を管轄している先住民のオフィスにて地図を見ることができます。

## 先住民の土地でのハンティングについて

先住民からの同意書が無い場合、先住民の土地の内でのハンティングは禁止されています。ユーコンでいかなる動物の猟をする場合にも、これらの先住民の領土がどこに位置するかを把握しておく必要があります。Environment Yukonのオフィス、もしくは[www.environmentyukon.gov.yk.ca](http://www.environmentyukon.gov.yk.ca) に掲載されているYukon Hunting Regulations Summaryの中には、一般の狩猟が禁止されている先住民の土地を大きく区分けした地図が掲載されています。小さな区分けは、先住民のオフィスにある詳しい地図に表示されています。またEnvironment Yukon で購入することも可能です。

---

## Environment Yukon

### Whitehorse District

10 Burns Road  
Box 2703  
Whitehorse, YT Y1A 2C6  
Phone (867) 667-5652  
Fax (867) 393-7197  
Email [environmentyukon@gov.yk.ca](mailto:environmentyukon@gov.yk.ca)

### Dawson City District

Dawson City Museum, 2nd flr  
Phone (867) 993-5492

### Faro District

In the Solar Complex, Campbell St.  
Phone (867) 994-2862

### Haines Junction District

109 Pringle Street  
Phone (867) 634-2247

### Mayo District

Yukon Government Admin. Bldg,  
Centre St.  
Phone (867) 996-2202

### Ross River District

Across from the Dena General Store  
Phone (867) 969-2202

### Teslin District

Km 1246 Alaska Highway  
Tel (867) 390-2685

### Watson Lake District

On Centennial Ave,  
across from Home Hardware  
Phone (867) 536-3210

---

## For further information

**Toll free** (from within Yukon)  
1-800-661-0408

**Email** [environmentyukon@gov.yk.ca](mailto:environmentyukon@gov.yk.ca)

**Web** [www.environmentyukon.gov.yk.ca](http://www.environmentyukon.gov.yk.ca)

---

## Visitor Information Centres

### Whitehorse

100 Hanson Street  
Box 2703  
Whitehorse, YT Y1A 2C6  
Phone (867) 667-3084  
Fax (867) 393-6351  
Email [vic.whitehorse@gov.yk.ca](mailto:vic.whitehorse@gov.yk.ca)

### Beaver Creek

Across from the Westmark Inn  
Phone (867) 862-7321

### Carcross

In the old train station  
Phone (867) 821-4431

### Dawson City

At the corner of Front & King St.  
Phone (867) 993-5566

### Haines Junction

In the Kluane National Park Visitor Centre  
Phone (867) 634-2345

### Watson Lake

At the junction of the Alaska  
& Robert Campbell Hwys  
Phone (867) 536-7469

---

## For tourist information

**Phone** (867) 667-5340

**Toll free** 1-800-661-0494

**Email** [vacation@gov.yk.ca](mailto:vacation@gov.yk.ca)

**Website** [www.travelyukon.com](http://www.travelyukon.com)

# ユーコンの野生動物を守るために



24時間 ・ 匿名希望受付 ・ 謝礼あり

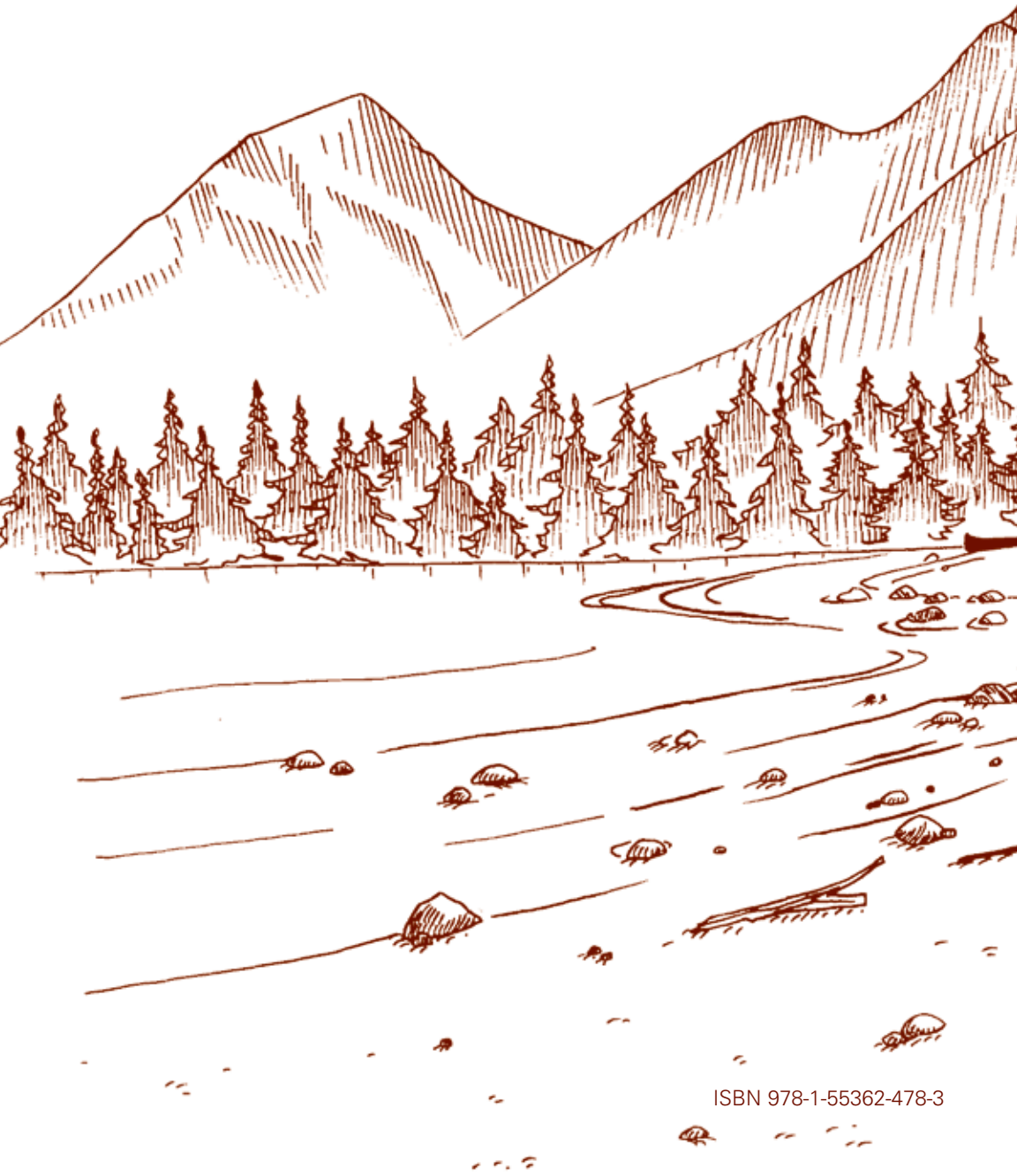
---

## 協力方法

万が一、誰かがハンティングやフィッシングの違法行為または環境法令に違反しているのを発見した場合、彼らに直接立ち向かい、不愉快な反応を受けることは避けて下さい。それは、私たちの仕事です。あなたには注意深く状況を観察し、下記の情報を記録することでご協力いただけます。

- ・ 期日と時間
- ・ 場所
- ・ 違反者の人数
- ・ 違反者の特徴
- ・ 車両の種類とナンバープレート
- ・ 違反内容や行為の詳細

これらの違反内容の詳細をTIPラインの番号1-800-661-0525に電話して報告して下さい。これらは、野生動物の保護に協力する行為であり、謝礼金の対象者として選ばれる可能性もあります。



ISBN 978-1-55362-478-3